

第4章

亀岡市の文化財の 保存・活用に関する 将来像と大方針

第1節 基本理念と目指す将来像

1 基本理念

亀岡市では、現在も多くの文化財が地域で受け継がれており、各寺院・神社所蔵の仏像や絵画、聖教類をはじめ、各自治会や区には自治会文書・区有現在も膨大な点数の史料が保管されています。

これらの文化財の保存・活用を図っていくためには、亀岡市・亀岡市教育委員会で施策を講じることが当然ながら、地域住民の協力と積極的な活動が必要不可欠と考えます。

こうした観点から、下記のとおり亀岡市の文化財の保存・活用の基本理念を設定します。

地域が主体となって、亀岡の文化財を理解し、保存・継承し、活用することを通じて、ふるさとへの愛を育み、地域の活性化へつなげる

2 亀岡市の目指す将来像

1の基本理念の具体的な姿として、実現されている状態として次に掲げるような5つの将来像を目指します。

①各地域の文化財の場所や基本情報が、地域の中で共有されている。

文化財の保存・活用施策を進めるうえで、市内各地域の文化財がどこに・どれだけ・どのようなか把握することが重要であり、さらには、亀岡市や京都府の文化財部局、所有者の一部だけでなく、地域住民や地域ゆかりの人々もその内容を把握しておくことが重要と考えます。この観点から、「文化財の基本情報が、地域の中で共有されている」ことを将来像のひとつとして位置づけます。

②地域住民、特に子どもたちが地域の行事に参加し、伝統行事が継承されている。

文化財の中長期的な保存・活用を考えると、地域住民の中でも、特に次の時代を担う世代である子どもたちを担い手として育てていくことが重要です。この観点から、地域の住民・子どもたちが、地域の文化財の担い手となっていることを将来像のひとつとして位置づけます。

③教育現場で地域の歴史が取り上げられており、子どもたちも地域に愛着を持っている。

②のためには、子どもたちの教育の場で、地域の歴史や文化・風土に関する「ふるさと学習」が恒常的に実施されており、このことによって子どもたちが自分たちの住んでいる地域に愛着をもつことが重要です。よって、②を実現するための前提となる、ふるさと学習の推進を将来像のひとつとして位置づけます。

④地域住民が主体となり、亀岡市と連携しながら地域の文化財の保存が進められている。

①～③の結果として、地域の文化財に関する保存事業が、亀岡市や京都府とも連携しながら、地域住民が主体となって進められていくことが重要です。よって、地域住民が主体となって文化財の保存が図られていくことを将来像のひとつとして位置づけます。

⑤地域住民が主体的に文化財の普及啓発を進めており、亀岡市とも連携しながら活用事業を推進している。

地域住民や地域ゆかりの人々が自律的・主体的に地元の文化財とその魅力を理解し、普及啓発を進めていることが望ましいと考えます。そのうえで、地域への交流人口・定住人口の増加を目指し、観光客誘致を含む活用事業が進められている状態を将来像のひとつとして位置づけます。

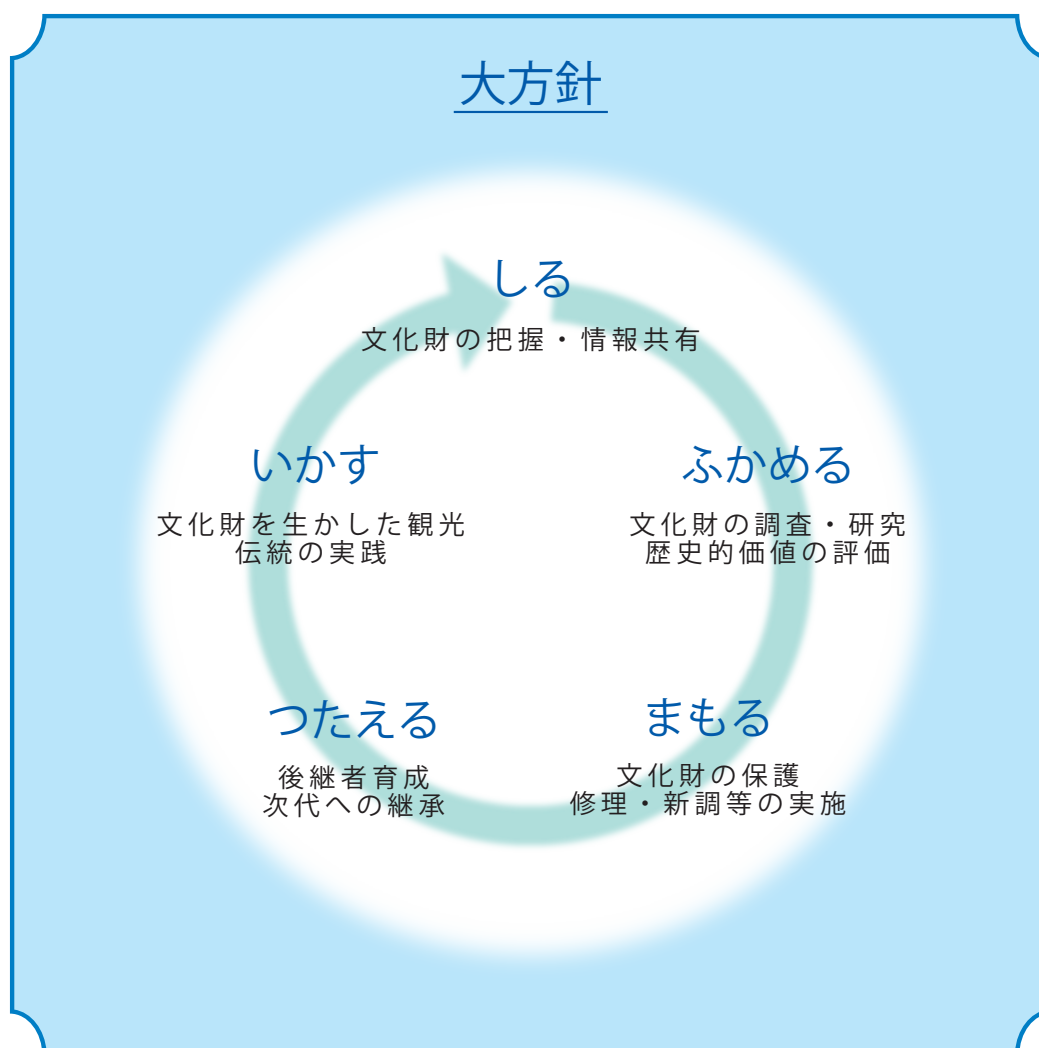
第2節 亀岡の文化財の保存・活用に係る大方針

1 大方針

基本理念・将来像を実現するために、次のような大方針を設定します。

- ・「しる」 …文化財の把握・情報共有
- ・「ふかめる」 …文化財の調査・研究、歴史的・学術的価値の評価
- ・「まもる」 …文化財の保存、修理・新調等の実施
- ・「つたえる」 …後継者育成、次代への継承
- ・「いかす」 …文化財を生かした観光、伝統の実践

これらの大方針は、相互に関連しており、循環する関係にあります。すなわち、文化財の存在を「しる」、その歴史的・学術的価値を掘り下げて「ふかめる」ことによって、文化財を「まもる」術や方策を講じられるようになる、これによって、外部や外界へ「つたえ」、観光客を招くことで「いかす」ことができるようになる。こうした活動を通じて、文化財の理解もよりふかまっていくな、というような関係にあります。



2 将来像と大方針の関係

将来像と大方針の関係を次のように考えます。

- 文化財の保存・活用を進めるうえでは、将来像①のように、文化財がどこに・どれだけ・どのようにあるのかという基本情報と、その歴史的価値・学術的価値を含めた内容を把握することが重要と考えます。よって、本計画では「しる」（文化財の基本的情報、概要の把握）と「ふかめる」（文化財の調査研究とこれを通じた歴史的・学術的価値の把握）を市の大方針として設定します。こうした「しる」の情報は、将来像③のように、学校教育の場でも取り上げていくことが必要と考えます。
- また将来像①と並行して、将来像②のように、地域の行事（祭礼や芸能、年中行事、行事食や文化財の虫干し等も含む）を地域住民や地域ゆかりの人々が共有し、実施することを通じて保存していくことが重要です。同時に、行事によらず地域の文化財を保存する動き（将来像④）が生まれていくことも重要と考えます。よって、本計画では「まもる」（文化財の保存・維持）を市の大方針として設定します。
- 「まもる」ことと同時に、地域の行事などを通じて文化財が若い世代へ伝えられていくことが重要です。よって、本計画では「つたえる」（後継者育成、次代への継承）を市の大方針として設定します。「つたえる」ことは、将来像②のような地域の行事だけではなく、将来像③のように、学校教育の場を通じて実現させることも重要です。
- こうした「まもる」「つたえる」といった活動の帰結として、地域の文化財の普及啓発活動が、内部だけではなく外部へも広がり、将来像⑤のように、文化財の活用事業が実施されていることが望めます。ここから、「いかす」を市の大方針として設定します。

